

Jacques Prévert et Roland Topor chantés par

megumi satsu

薩めぐみ

プレヴェール/トポール

夢の葬送 影の航海

7/13(日) - 16(水)

企画制作＝ハルコ・ハルファム・ジョア

後援＝フランス大使館文化部

協力＝ヌーヴェル・フランス

開演＝PM7:00(13日のみPM3:00)

料金＝3000円(全席指定)

お問い合わせ＝西武劇場464-5100-1

電話予約＝200-4030/464-5109

前売所＝渋谷・池袋・バルコ1F、各プレイガイド

Récital de Chanson

レシタル ドゥ シャンソン

PARCO 西武劇場

薩めぐみ/ プレヴェール, トポール

7/13(日)—16(水)

開演=PM7:00(13日のみPM3:00)

料金=3000円(全席指定)

[夢の葬送 影の航海]

Jacques Prévert
et Roland Topor chantés par
megumi satsu

彼は「幻影宮」の扉を押した

彼は「幻影宮」の扉を押した

そして無愛相な影ばかりの彼の風景の

いつもながらの残骸のなを

微笑しながらその異常な旅をしつづけ

歌うたいながら燃えたつ大砂漠を渡って

いく

ジャック・プレヴェール「EXILE DES V
ACANCES (ヴァカンスの亡命者)」より

わが国ではシャンソンの『枯葉』や映画
『天井桟敷の人々』のシナリオ作家として
知られているジャック・プレヴェールは、
なに気ない日常の現実にはひそむ人間のひび
割れた愛や傷ついた優しさを詩った。親し
みやすい言葉によって描かれているからこ
そ、彼の詩はよりナイーブにわれわれの身
近な“生”そのものの装われた偽態をはぎと
り、見通さずにはおかぬ透んだまなざし
に溢れている。

「彼の語法がわれわれの語法に近い、親し
みやすいものであればあるほど、その過激
さや危険性は増大するだろう」

(『現代詩手帖〜プレヴェール特集 安藤元雄「路上
の魔法」より)

《真実の心をうたうのに見せかけの享楽
はいらない》(ジャック・プレヴェール)

そのプレヴェールが、彼の死の2年前に
TVやラジオで薩めぐみの歌を聴き、心を
打たれ自らの死に際して、彼女のために未
発表の詩を残したのだった。それらの詩の
なかから、めぐみは一連のシュール・レア
リズム的な作品を選んでプログレッシヴ・
ロックの作曲家ジャン・クロード・ギュゼ
リに曲の製作を依頼し、バリのキャフェ・
テートルでリサイタルを催す一方、レコー
ドとしても発表した。

Récital de シャンソン リサイタル Chanson

ディスク



「ジャック・プレヴェール／薩めぐみ」(2800円)

フランス直輸入盤 LYRION社 616/LY404)

プレヴェールから贈られた詩をもとにプログレ
ッシヴ・ロック、ジャズなどのミュージシャンの協力
によって現代の繊細な都市の感性をうたっている。
(発売中) また、ブラック・ユーモア作家で画家と
しても著名なローラン・トポールより贈られた詩を
もとにした『ローラン・トポール／薩めぐみ』を7
月上旬に発売する予定。

国内発売元:PIED PIPER HOUSE

(パイプ パイパー ハウス) Tel. 499-1966

Address: 東京都渋谷区南青山5-10-6

協力販売:アール・ヴィヴァン (池袋・西武パー
ト12F) Tel. 981-0111内2956

流れすぎて行く時の淵で

「流れすぎて行く時の淵にたたずむ人間の
心象風景をうたった」と彼女は自身の選ん
だプレヴェールの詩について語っている。
めぐみの奥深い陰鬱にみちた声は、プレ
ヴェールの詩の世界を昏く優しく塗りこめ、
現代によみがえらせる。甘い感傷や冗長な
表情はそぎ落とされて、ひそやかな夜のつ
ぶやき、うめき、痛みをたたえた優しさ、
傷ついた影のあてどない彷徨をわれわれに
訴えるのだ。また『黒い咲笑』の作家ロー
ラン・トポールから贈られた詩をしがれた
エモーショナルな声で、歪んだ笑いの底
無しの淵へ引きずりこむように彼女はうた
う。

割れた鏡

彼女のステージによって、聴衆は従来の
シャンソンのイメージを打ち砕かれるとと
もに、自身の心象を映しだす鏡もひび割ら
れて、あてどもない残酷で優しい影の航海
へと旅立たずにはおかぬ。

*聴衆をまるごと魔法にかけるようなすば
らしいステージ。たったの5秒でメグミの
'30年代のローブのポケットにすいこまれて
しまう。(ル・マタン紙)

*彼女の声は、主題の皮肉な残酷さを愛撫
する。少し造花のように、少し肉食性の花
のように、そうエキゾチックな超現実的な
魅力を彼女は放射する。(ル・モンド紙)

*能舞台のフィルターを経たシャンソン。
(レ・ヌーベル・リテレール紙)

*あふれ出る下卑た言葉。王侯の高雅。し
ゃがれた声の跳躍、熱情と眩暈。最も単純
な花のような滑らかな顔。彼女が「私は死
ぬの」と歌う時、彼女は死ぬのだ。(パリ・ヘ
ブド紙)

*秘めた憂愁と、脱出への熱望。……眩め
きの中に地獄の優しさを持っている。(ル・
モンド・ドゥ・ミュージック)

企画制作=バルコ/バルファム・ジョア

後援=フランス大使館文化部

協力=ヌーヴェル・フランス

お問い合わせ=西武劇場464-5100~1

電話予約=200-4030/464-5109

前売所=渋谷・池袋バルコIF、各プレイガイド

